

## クルクマについて

### 1 クルクマとは

クルクマは、東南アジア原産のショウガ科に属する球根植物で、元々はその根茎が食用や薬用として利用されていました。

クルクマは暑さに強く、蓮の花に似ていることもあり夏の仏花として定着してきましたが、最近ではブライダル・アレンジフラワーにも使われるようになってきました。

日持ちが良いため、夏場でも切花で2週間程度楽しむことができます。ただし、寒さは苦手なので、冷房の冷気が直接当たる場所は避ける必要があります。

なお、ピンク色の花びらのようなものは包葉（ほうよう：葉の一種）で、その下にある小さい紫色のものが本当の花です。

【品種名：シャローム】



### 2 国内の栽培状況等について

クルクマが、日本に初めて紹介されたのは、1990年（平成2年）の大阪花博です。

現在、国内では主に静岡県、福岡県、鹿児島県、愛知県、沖縄県で栽培されています。

愛知県では、1993年から碧南市において切花として栽培が開始され、現在は、碧南市（103㍓）と愛西市（10㍓）の2市で生産・出荷されています。（平成22年産花き生産実績調査から）

#### 【新品種について】

本県の試験場では、2005年から新品種の育種を開始し、切花にも鉢花にも向く鮮やかな赤紫色の新品種「クルクマ愛知1号」を開発し、2011年12月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。

切花は2012年7月から、鉢花は同年8月から出荷が開始されます。



### 3 碧南市の花き生産状況について（農協ホームページから抜粋）

鉢物は、洋らん、観葉植物、花壇苗、鉢花と幅広い種類を生産しています。

切花は、主にきく、カーネーションを生産しており、他にもクルクマ、ケイトウなどを生産しています。特にクルクマは、県内生産量の大半を占めています。

クルクマについては、平成5年から全国に先駆けて切花として栽培を始めました。その後、品種の選別を進め、全国でもトップの品質を誇るようになりました。現在の生産者数は8名、栽培面積は103㍓、生産量は年間33万本であり、品種はシャローム（ピンク）が9割を占め、他にエメラルド（緑）、ホワイトラブ（白）などを栽培しています。

出荷期間は5月から10月までで、需要期はお盆になり、関東・東北を中心に甲信越・中京・関西地区にも出荷しています。

#### 【品種紹介】

エメラルド



ホワイトラブ



ゼブラチョコ



プリンセス



クルクマ愛知1号



### 4 長く楽しむためのアドバイス

花びんに活ける前に、水を張ったバケツの中で2～3cm切り戻しを行ってください。

その後は、常温で保存し、直射日光を避けて飾ってください。なお、水替えをこまめに行って、午前中に最低1回は霧吹きで保湿すると更に長持ちします。

また、寒さは苦手なので、冷房の冷気が直接当たる場所は避けてください。葉っぱの元気がなくなってきたら、再度、切り戻しを行って、花びんの水を替えてください。